

コートジボワール

Republic of Cote d'Ivoire

	2013年	2014年	2015年
①人口：2,330万人（2015年）			
②面積：32万2,462km ²			
③1人あたりGDP：1,315米ドル （2015年）			
④実質GDP成長率（%）	9.3	8.5	9.2
⑤消費者物価上昇率（%）	2.6	0.4	1.2
⑥失業率（%）	n.a.	n.a.	n.a.
⑦貿易収支（100万CFAフラン）	1,479,200	1,914,800	2,112,700
⑧経常収支（100万CFAフラン）	△208,800	252,200	110,100
⑨外貨準備高（100万米ドル）	4,243	4,479	4,716
⑩対外債務残高（グロス） （100万CFAフラン）	4,303,400	4,785,378	5,417,398
⑪為替レート（1米ドルにつき、 CFAフラン、期中平均）	494.04	494.42	591.45

〔注〕⑦⑧の2014年、③～⑤⑦⑧の2015年は推計値、⑦は国際収支ベース（財のみ）
〔出所〕①②④⑤⑩：経済財政省、③⑨⑪：IMF（IFS）、⑦⑧：西アフリカ諸国中央銀行（国際収支統計）

■ 西アフリカで最も高い成長を維持

コートジボワールでは、2015年10月に和平定着の鍵を握るとされた大統領選挙が平和裏に実施され、国内情勢の安定度が増している。

経済は、国家開発計画に基づく大規模な公共事業が内需拡大につながり、成長を後押しした。政府は、2020年までに新興国入りを目指して経済改革を加速しており、ビジネス環境の改善を背景に経済活動が活発化、2015年は9.2%の成長を達成したとみられ、前年に続き西アフリカで最も高い成長率を記録した。今後も堅調な内需に牽引され、2016年と2017年は9.8%、8.9%の見通しだ。

産業別では、内需の拡大と輸出増加により、農業、鉱業、製造業、石油精製、エネルギー、建設、情報通信技術（ICT）、運輸、小売り・流通が総じて好調だった。

需要項目別では、民間最終消費支出は、雇用・所得環境の改善で前年比7.7%増加した。政府最終消費支出は、雇用創出や教育・保健衛生など優先分野で支出が増加し20.0%増となった。民間投資は、生産設備の更新や拡張、住宅建設のほか直接投資も増え14.9%伸びた。公共投資は、大型公共事業が進展し21.0%増となった。

■ 輸出・輸入ともに過去最高

2015年は輸出が前年比15.6%増の7兆4,238億CFAフラ

表1 コートジボワールの需要項目別実質GDP成長率

	2013年	2014年	2015年
実質GDP成長率	9.3	8.5	9.2
民間最終消費支出	4.2	7.8	7.7
政府最終消費支出	3.7	11.3	20.0
国内総固定資本形成	50.0	15.9	17.0
財貨・サービスの輸出	△7.9	4.0	8.5
財貨・サービスの輸入	△5.4	3.7	13.0

〔注〕2015年は暫定値。

〔出所〕経済財政省

ン（以下、FCFA）、輸入が11.5%増の6兆1,677億FCFAとなり、それぞれ過去最高を更新し、貿易黒字は41.0%増の1兆2,560億FCFAに拡大した。品目別では、輸出では、カカオ豆が構成比28.3%で最大であった。生産量が183万トンと過去最高を記録し、数量で15.0%増加したことに加え、国際価格が強含みに推移し金額ベースで39.4%増加したことで、輸出総額を押し上げた。カカオ調製品（構成比12.5%）は、現地加工率向上を目指す政府の奨励策と原料供給の安定により19.0%増加した。原油（4.3%）は、産出量が大幅に増加したものの、原油価格の低迷により金額ベースでは横ばいとなった。石油製品は、国内消費の増加と国際市況の軟化で34.8%の大幅減少、構成比も前年の15.3%から8.6%に低下した。金（6.0%）は、開発の進展による生産増加と国際価格の上昇が相まって28.6%と大幅に増加した。

最大の輸入品目である原油は、需要増により数量ベースでは前年比7.4%増加したが、油価の下落により金額ベースでは30.6%減となり、構成比も前年の23.4%から14.6%まで低下した。次いで一般機械、鉄鋼、コメ、プラスチック製品、輸送機械、魚介類と続く。需要別では、資本財（構成比19.8%）、食料品（17.3%）、食料品以外の消費財（21.0%）がそれぞれ33.6%、16.0%、1.9%増加した一方、石油製品など中間財の輸入が9.0%減少した。

国別では、輸出は、オランダが主要品目のカカオ豆・調製品的大幅増により前年比31.5%増、構成比12.5%を占め最大となった。続く米国（構成比8.5%）、ベルギー（6.8%）、ドイツ（6.3%）、フランス（6.0%）は、カカオ豆・調製品や天然ゴム、木材が好調で、それぞれ大幅に増加した。インド（4.4%）はカシューナッツを中心に増加、ナイジェリア（4.0%）は石油製品の不振で減少した。

輸入では、ナイジェリアが15.5%を占め依然として最大の相手国となっている。同国からの輸入は原油が9割

表2 コートジボワールの主要品目別輸出入<通関ベース>
(単位:100万CFAフラン、%)

	2014年		2015年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出合計(その他含む、FOB)	6,421,505	7,423,760	100.0	15.6
カカオ豆	1,505,896	2,099,744	28.3	39.4
カカオ調製品	782,533	930,910	12.5	19.0
石油製品	980,762	639,107	8.6	△34.8
金	347,605	446,953	6.0	28.6
カシューナッツ	391,841	427,352	5.8	9.1
原油	322,461	322,172	4.3	△0.1
天然ゴム	302,678	299,782	4.0	△1.0
輸入合計(その他含む、CIF)	5,530,932	6,167,733	100.0	11.5
原油	1,292,625	897,472	14.6	△30.6
一般機械	431,055	547,161	8.9	26.9
鉄鋼	269,505	389,466	6.3	44.5
コメ	216,373	290,838	4.7	34.4
プラスチック製品	209,092	266,652	4.3	27.5
輸送機械	193,510	258,925	4.2	33.8
魚介類	193,379	230,393	3.7	19.1

[注] 2015年は暫定値。
[出所] コートジボワール税関総局

強を占めているが、油価の下落で30.0%減少した。以下、フランス(14.0%)、中国(13.0%)と続く。米国、インド、イタリアは構成比4.0%で並んでいる。

■大型投資が相次ぐ

対内直接投資では、エネルギー、建設資材、農産物加工、ICTなどの分野で外資による新規の大型投資が目立った。新投資法の立地ゾーン別の優遇措置により地方都市にも投資が増えたほか、法人設立や投資認可手続きの簡素化、迅速化も投資増に寄与した。コートジボワール投資促進センター(CEPICI)によると、認可ベースの投資(国内資本含む。鉱物資源・石油・ガス探査と開発、不動産、金融・保険サービス部門を除く。商業、運輸は5億FCFA以上の案件のみが対象)は、件数で前年比84件増の248件、金額では57.0%増えて約6,700億FCFAと過去最大となった。業種別では建設関連が最大で、次いで食品加工、ICT、その他製造業、ホテル、運輸が上位を占める。国別では、モロッコ(構成比20.0%)、フランス(15.0%)、ブルキナファソ(10.0%)、マリ(5.0%)、レバノン(4.0%)、トルコ(2.0%)など34カ国に上る。近年は中東やアフリカ勢の攻勢が目立ち、貿易とともに投資でもパートナーの多角化が進んでいる。

外国企業の動向をみると、資源開発では英国のトーラスゴールドが金鉱開発計画を発表。エネルギー部門では、フランスのエラノーヴや、英国のグローベックがガス火力発電所の拡張に投資、米国のエンデバー・エナジーが独立系発電事業へ投資予定。ゼネラル・エレクトリック(米国)、エクソンモービル(米国)、エンジー(旧GDFスエズ、フランス)は事業拠点を設立した。食品加

表3 コートジボワールの対日主要品目別輸出入<通関ベース>
(単位:100万CFAフラン、%)

	2014年		2015年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出合計(その他含む、FOB)	4,062	3,407	100.0	△16.1
カカオ調製品	3,087	2,415	70.9	△21.8
カカオ豆	589	734	21.5	24.6
輸入合計(その他含む、CIF)	96,105	129,196	100.0	34.4
乗用車	41,713	63,324	49.0	51.8
乗用車以外の車両・部品	11,268	16,125	12.5	43.1
機械機器	10,073	11,645	9.0	15.6
セメント用クリンカー	8,261	8,604	6.7	4.2
ゴム製品	3,441	5,841	4.5	69.7
スラグサンド	6,441	5,647	4.4	△12.3

[注] 2015年は暫定値。
[出所] コートジボワール税関総局

工では、マリヤ、フランス企業によるビール醸造、レバノンとフランス企業合併によるパーム精油、セネガルとフランス企業合併によるカシューナッツ加工、フランス企業による製麺事業などがあつた。その他製造業では、モロッコ企業やトルコ企業によるセメント、中国企業による農薬・農業資材、フランス企業によるラテックス加工およびプラスチック製品、スペイン企業による製材で大型投資があつた。ICT、運輸、ホテルなどサービス産業へもモロッコ、ベルギー、スイス、クウェート企業などが進出している。

工業用地の整備が急ピッチで進められているが、工業用地の利用料の引き上げや、人件費の上昇、電力料金の値上げが相次ぎ、生産コストが上昇している。

■対日輸入は増加、輸出は減少に転じる

2015年の対日貿易は、輸出が34億700万FCFA(前年比16.1%減)、輸入が1,291億9,600万FCFA(34.4%増)となった。品目別では、輸出の7割を占めるカカオ調製品は金額、数量ともにそれぞれ21.8%、36.7%減少した。2割を占めるカカオ豆は金額、数量ともにそれぞれ24.6%、11.1%増加した。日本からの輸入は工業製品が全体の4分の3を占め、乗用車(構成比49.0%、前年比51.8%増)、ディーゼルエンジンなど機械機器(9.0%、15.6%増)、セメント用クリンカー(6.7%、4.2%増)、タイヤなどゴム製品(4.5%、69.7%増)などの耐久消費財、中間財、資本財の増加が目立った。一方、建設資材のスラグサンドや圧延メッキ鋼板などの鉄鋼製品は減少した。

日本企業の動向では、商社4社とメーカー1社が活動を展開しており、2016年4月には食品加工機械メーカーのサタケが駐在員事務所を開設した。既存の代理店との関係強化や、新たなパートナー発掘で日本企業の往来が活発化、円借款も再開され、西アフリカの拠点として日本企業が進出する下地が固まってきたとみられる。